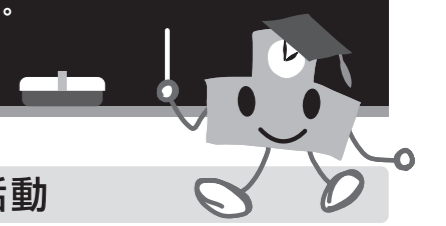


### 小学校の事例 中央区 幌西小学校

# どのくらいきちんと分別できたの？ リサイクル通信簿で意欲的に資源回収。

子供たちの意見で徹底したリサイクルに取り組む。  
正しく分別されたかチェックした通信簿をもらう。



## 内容 環境にかかわる「想像力」豊かな委員会活動

本校では、児童会の当番活動として、子供たちから提案される意見を取り入れ、積極的なリサイクル活動を展開。札幌市指定の分別よりもさらに細かく資源を分類している。内容は、リングブルとペットボトルキャップの収集、資源化プラスチック(6分別)の収集・分別・リサイクル。毎年、高学年になった子供たちが主体性をもって活動しており、今年度は資源物回収の「収集したものの分別・点検」に力を入れて取り組んだ。

分別の結果については、回収業者から毎月「リサイクル通信簿」が送られてくる。これは回収したものが

どのくらい正しく分別されていたのかを円グラフで表示しているもの。結果がすぐにわかるため、子供たちの活動の励みとなっている。また、回収量が種類ごとにポイント化されてベルマークのように交換できるようになっており、目標に向けた活動がしやすくなっている。



リサイクル通信簿

## 今後 回収物の「その後」を知る

ただ集めるのではなく、全校児童が「そのあとどうなっているのか」をきちんと知ることができる、という点が、リサイクル活動の継続にとっては大きなモチベーションとなる。本校では、自分たちで回収されたものが何にリサイクルされるのかを図説したものを児童玄関に貼るなどの取組も行っている。

今後は子供たちが、リサイクルの「心がけと現実」について身をもって知ること、さらなる工夫や創造性を育むことを期待する。



リサイクルのその後を図説し掲示

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪

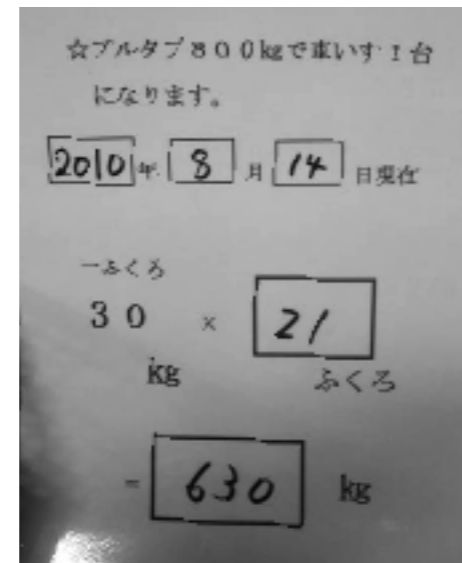
リサイクル活動以外にも、北大生などによる「発電体験授業」として、とてもおもしろい実験をしてもらいました。「CDの曲を一曲聴くために、自転車をこぐには何分間必要か？」という予想をさせた後、実際に子供たちに発電用の自転車のペダルを5分間、力いっぱいこいでもらう。そして電球につなぐと、なんと豆電球が一瞬ついただけ、という結果に、子供たちからは「え～!? あんなに一生懸命自転車をこいだのに～?」と驚きの声があちこちから上がってきました。実験の結果を予測して実際にやってみる。その結果を身をもって知ること、さらに興味がわく。こういう身近なものを題材にすることで、子供たちの中に「環境の『ものさし』(子ども自身の環境のスケール)」が生まれるのではないのでしょうか。

## 効果 地域の協力も得られるように 実験も大人気

本校でペットボトルキャップとリングブルの回収を行っていることを知り、地域の方が学校へ持参してくれるようになった。また、近隣で工事をしていた業者の方も、現場で飲んだコーヒー缶のリングブルを持参するなど、協力が得られた。

紙すき体験には、環境委員会以外の児童から「私もやってみたい」とたくさんの反応があった。今後は、1～2年生の授業や、学校祭などで機会を設け、多くの児童が体験できるような取組を検討している。多くの児童が関心をもつ紙すき体験を通じて、リサイクルへの関心が高まる効果が期待されている。

節電・節水の呼びかけでは、平成22年度は前年度に比べ、使用量がかなり減少。グラフ化・数字化することで、なぜ増えたのか減ったのかを考えるきっかけが生まれ、また、教室の照度計測を行って無駄な電気と必要な電気が明確になり、より節電への意識が高まった。



目標までの数量



ペットボトルキャップ入れ

## 今後 今一番大切な学習 地域への積極的な呼びかけも

日本はこれからリサイクルやエコを考えていく時代。本校では現在、最も大切な学習だと捉えており、体験によって環境学習を深めていくことを重視している。キットの運搬など多少苦勞する点もあるが、今後も体験を中心として活動を進めていく考えだ。まずは実践してみて、継続できそうなことを残し、さらにこれからは地域への呼びかけも積極的に行い、活動を広めていきたいと考えている。

また、これからも以上のような活動をとおして、地域の方とも一緒に環境問題を考えていこうと思っている。



生徒玄関の掲示物

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪

これからの時代、環境学習は非常に重要なことだと思います。しかし、「環境」とは、ごみの分別や花の栽培活動、さらには新エネルギーや地球温暖化など、広範囲であり、どの分野も大切なことなので、何を学習していけばいいのか戸惑うことがあります。環境カリキュラムとして「小学校では〇〇を学習する」という題材やテーマをはっきりさせることができると、児童にとっても教員にとっても、なおいっそうよい環境学習ができると思います。